

平成23年7月新潟・福島豪雨災害の記録

金山町災害支援業務の概要について(途中経過報告)

会津若松建設事務所
企画調査課 主任主査渡辺 拓雄

施工場所:大沼郡金山町

1. 概要

平成23年7月27～30日にかけて発生した『新潟・福島豪雨』は、只見川沿川の町に被害をもたらした。

特に金山町については道路橋4橋(内町道橋3橋)、鉄道橋3橋が流失するほどの甚大な被害を受けた事から、早期復旧を支援するため、8月5日より同町の復旧工法の検討や関係機関との協議、災害査定準備等の業務を会津若松建設事務所の職員4名により支援した。

<金山町の主な災害>
○滝沢田沢線の田沢橋流失
○土倉西部線の西部橋流失

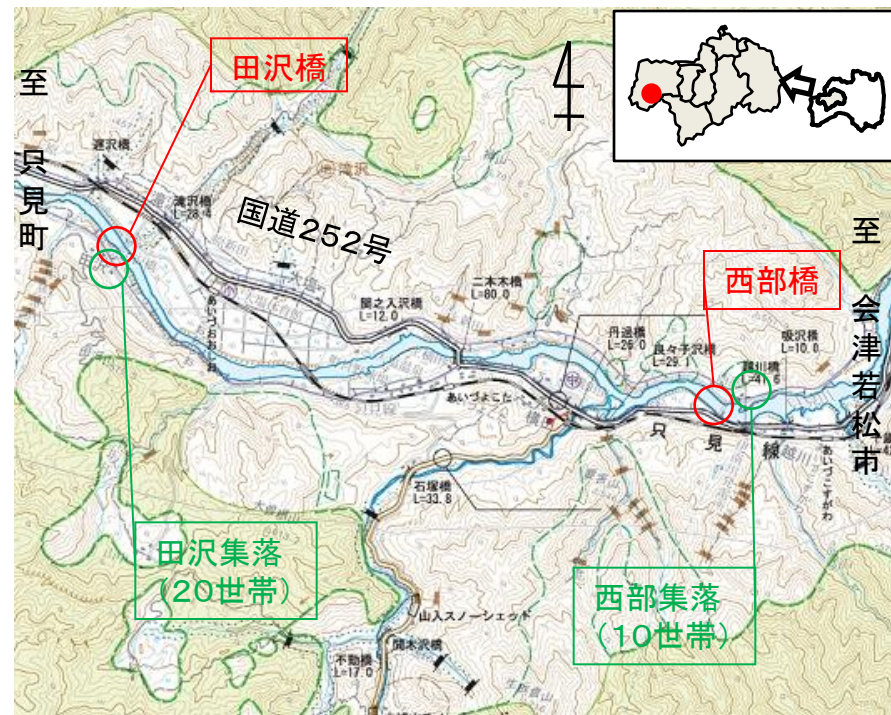
2. 経緯・課題

○田沢橋落橋に伴う課題

- 田沢集落の20世帯が迂回路として利用できる道路が只見川の右岸に沿って通っているが、急峻な地形であり、落石の危険性も高く、町でも冬期は通行止めしている。
- 田沢橋の架け替え工事を実施しており、平成24年度の供用を予定しているため、被災橋梁の復旧は必要ないが、冬期間の交通を確保する必要がある。

○西部橋の落橋に伴う課題

- 西部集落の10世帯が迂回路として利用できる道路が只見川の左岸に沿って通っているが、雪崩の危険が高く、町でも冬期通行止めとしている。
- 復旧に時間を要するため、冬期間の交通を確保する必要がある。



<経過>

- 平成23年 7月28日 金山町等に大雨・洪水警報発令
- 平成23年 7月29日 二本木橋、西部橋、田沢橋が落橋
- 平成23年 7月29日 孤立集落救助のため、町が自衛隊派遣要請(西部集落等)
- 平成23年 7月30日 孤立集落の救助完了
管内町村の大雨・洪水警報解除

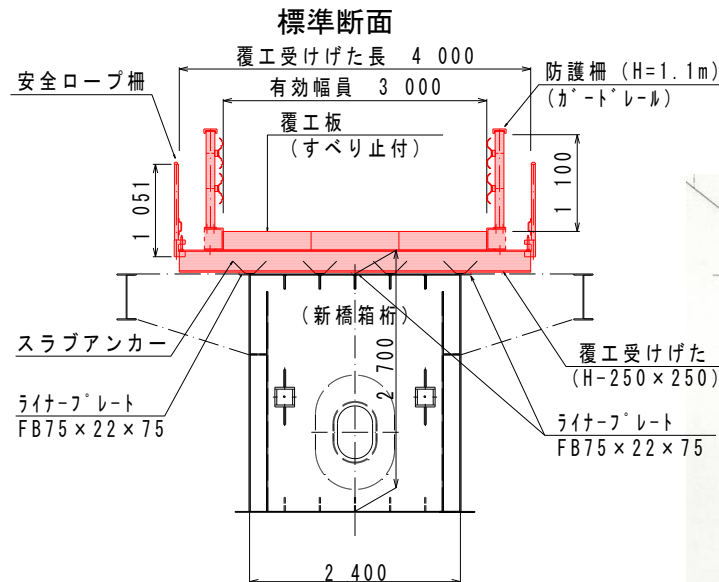
3. 内 容

○田沢橋

橋梁架替工事として上部工工事を発注していたことから、主桁を利用した仮設橋面工を災害復旧工事として提案し、冬期交通を確保することで、集落の孤立解消を図った。

【全体事業費】16百万円(査定額)

【全体計画】 L=124.0m、W=3.0m



○西部橋

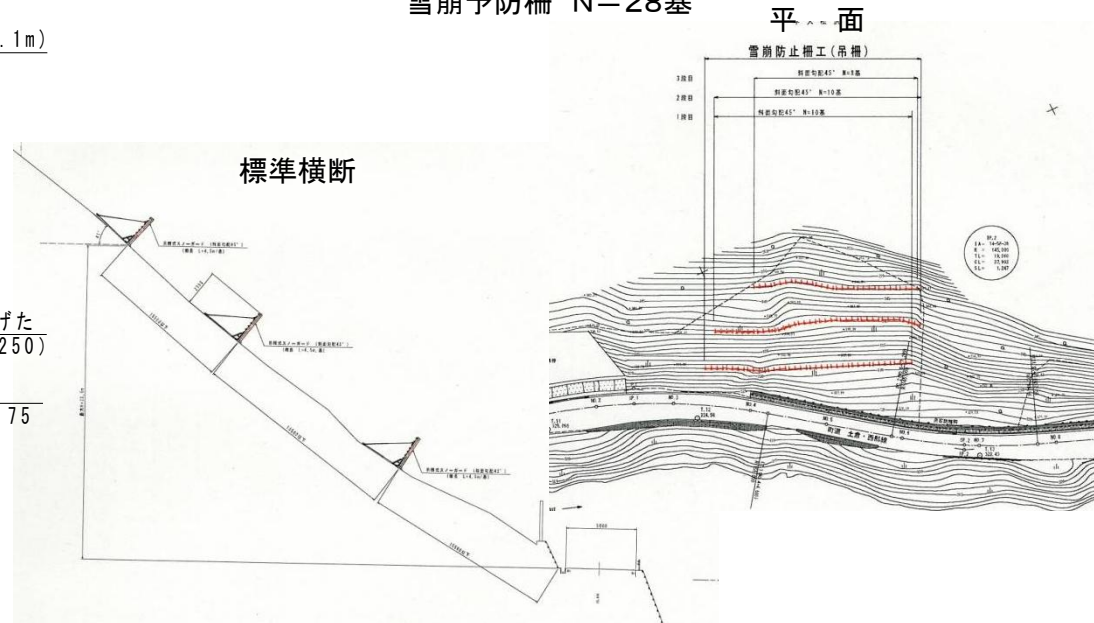
被災橋梁の復旧には時間を要してしまうことから、集落の冬期孤立解消を図るため、迂回路として利用できる町道の雪崩予防柵の設置を応急本工事として提案した。

【全体事業費】1,072百万円(災害関連査定額)

(内雪崩予防柵 70,913千円)

【全体計画】 橋梁工 L=104.0m、W=5.0m

雪崩予防柵 N=28基



4. 進捗状況・創意工夫

- ・田沢橋については、平成23年12月15日に仮設橋面が完成し、本格的な降雪前に完成することができた。新たに建設していた橋梁についても平成24年11月30日に完成している。
- ・西部橋についても、平成23年12月15日に雪崩予防柵の設置が完了しており、本格的な降雪前に完成することが出来た。橋梁の災害関連工事についても、北陸地方整備局に委託し、早期完成を図るべく進めている。

5. おわりに

・今回の災害は奇跡的にも人的な災害はなかったが、被害は甚大なもので、奥会津の山々に囲まれた地形的な要因と豪雪地帯である気象的な要因により集落の孤立が課題となり、一時的な集落の移転についても検討されたが、豪雪地帯では雪下ろしによる家屋の保全が必要となるため、短期間に最大限の効果を発現する手法について検討し、国や県庁との協議を進めた。

・災害復旧の基本である原形復旧等に馴染まない特殊な案件であるにもかかわらず、国等の理解のもと、住民に安心を提供出来、とても勉強になった。